

基調講演

世界獣医師会における ワンヘルス推進の取組と今後の展望

Rafael Laguens
世界獣医師会 会長



ラガンス博士は、スペインサラゴサ大学を卒業し、ソリア州の大手動物病院で獣医師として11年勤務。その後、カスティーリャ・イ・レオン準州の獣医公衆衛生担当官となり、1990年から2017年まで務めた。「農業・食品技術研究所 (C.S.I.C.)」の食品技術高等専攻の学位を取得しており、2003年から2007年にはスペイン食品安全庁 (AECOSAN) 諮問委員会の委員にも就任。ペットと馬の登録を管理するインターネットデータベースの設計、助言、管理運営業務にも携わった。スペイン保健省 (MSPS) 評価委員会や、カスティーリャ・イ・レオン準州保健科学研究所、欧州獣医師継続教育イニシアチブ (VetCEE) 等、国レベル及び欧州レベルで獣医師の継続的な教育に係る多くのプロジェクトに参加している。2019年及び2020年は獣医師ウェブポータルウェブマスター及び、獣医公衆衛生ジャーナル「Hygia」のエディターも務めた。州、地域、国、国際レベルで、スペイン獣医師協会の複数の役職に就いている。2011年から2017年は世界獣医師会 (WVA) 欧州評議員、2015年から2019年には、欧州獣医師連盟 (FVE) の会長を務めた。2020年から2022年は次期会長として、WVA会議開催常設委員会の委員長を務めた。現在、彼は「ソリア獣医師公認カレッジ」の総長として、コミュニケーション、教育、技術に関するコンサルタントを行っている。ラファエル・ラガンス博士は、2022年3月30日に世界獣医師会の会長に就任した。

ワンヘルスは、その横断的な状態、専門分野との相互関連性、獣医学部を超えた学際性のために、世界獣医師会 (WVA) にとって極めて重要な優先事項である。WVA運営組織とそのワンヘルス作業部会は、ワンヘルスを理論上の概念から、人間、動物、植物、環境の健康の取り組みに関わる異なる部門と専門分野との間の共同努力の日常的な実践へと推し進めることを目指している。

WVAは、ワンヘルス ハイレベル専門家パネル (OHHLEP) の提案する「清潔な水、エネルギーと空気、安全で栄養価の高い食物への集団的なニーズに対応し、気候変動への対策を講じ、持続可能な開発に貢献しながら、ウェルビーイングを発展させ健康と生態系への脅威に対処するために共に取り組むこと」に同意する。

この取り組みを前進させるためには、情報の収集と共有を強調し、異なるレベルでのコミュニケーションを増やし、学部および大学院のレベルと継続教育および専門的訓練における適切な訓練と教育を開発する、多部門・多国間の協力の強化が必要である。